



INTERNATIONAL TALENT SUPPORT 2016

世界が注目する国際コンクール ITSで見つけた 期待のデザイナーたち

新人デザイナーの登竜門として世界的に知られるコンクールITS(イツ)で、
今年も4人の日本人を含む多くのアジア人がファイナルに進出。
注目を浴びたファッション部門受賞者と大健闘したアジアのデザイナーたちを紹介する。



授賞式。右はITS創始者のバルバラ・フランキン。



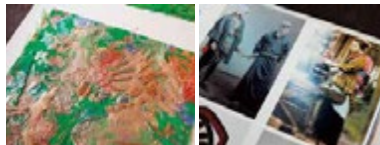
ドレープを駆使した変化に富むシルエットが並ぶ。



**ファッション部門
ITS FASHION賞
狩野摩耶子
Mayako Kano**

日本人の父とニュージーランド人の母を持つ。ヴィクトリア大学ウェリントン校で建築を学び、アントワープ王立芸術アカデミーを経て、NYのバーゾンス・スクール・オブ・デザインを昨年卒業。

日本の江戸時代末期の写真をインスピレーション源のひとつに制作。1930年~40年代のカーティング技術や、レースやシフォンなどのドレスリーなマテリアル使いも大きな特徴。重ねたピースを刺繍でつなげるという手の込んだディテールを取り入れることで、構築性としなやかさを併せ持つフェミニンなコレクションに仕上げられている。「デザイナーとして早く働きたい」と話す彼女が今回のITS FASHION賞に輝き、賞金10,000ユーロ(約114万円)が授与された。



ポートフォリオより。刺繍した生地と江戸時代の写真。



**ファッション部門
OTB賞
アナ・ボーンホルド
Anna Bornhold**

ドイツ出身。昨年、ブレーメン芸術大学を卒業。2014年のITSにおいてメンズのニットウェアが高く評価され、MODATECA賞を獲得。15年のイェール国際フェスティバルでは、クロエ賞にも輝いている。

「カエルの王様にキスをすると恋人を見つけられる」という物語がテーマ。提案されたのはジェンダーをミックスした作品で、恋人どうしてシェアするアイデアから、得意のニットと糸くずを集めてステッチをかけたマテリアルはオリジナルティにあふれ、カラフルでハッピーなコレクションとなった。「失うものは何もない!」と2度目の応募に挑戦した今回、みごとOTB賞を受賞し、賞金5,000ユーロ(約57万円)を獲得。OBTグループのブランドで研修もできる。



どこか温かみを感じさせるアナのコレクション。



クリスタルを埋め込んだニットと生地のサンプル。

毎年、イタリアのトリエステで開催されるITS(International Talent Support)は、才能豊かな次世代デザイナーが発掘される場所。ファッション、アクセサリ、ジュエリー、アトワークの4部門があるのが特徴で、それぞれのコンクールで勝ち抜いたファイナリストが、7月の最終ステージで審査を受ける。15周年を迎えた今年は、21か国から41人がノミネート。審査を行なうのは、各分野のプロフェッショナルたちで、第3回ITSファイナリストのデムナ・ヴァサリアや人気デザイナーのイリス・ヴァン・ヘルベンも参加。そのほか、ブランドの関係者、ヘッドハンター、エディター、学芸員などによって構成される審査員たちの投票によって、各賞が決定した。注目のファッション部門ITS FASHION賞に輝いたのは、日本人を父に持つニュージーランド出身の狩野摩耶子。一昨年にもファイナリストに選出されたアナ・ボーンホルドがOTB賞を獲得。そして近年の国際コンクールではアジア勢の活躍が目覚ましい。今回のITSも日本人4人がファイナリストに選出され、高いクリエイション力を見せてくれた。



北イタリア・トリエステにある会場。



審査の様子。ジュエリー部門とアクセサリ部門は、審査員が展示場を回り、作品説明を聞く。ファッション部門は、審査員の前にモデルを並べてプレゼンテーション。ショーのリハーサルもジャッジの対象となる。

アジア勢も活躍!

国際色豊かなITSには、今年、78か国から総勢935の応募が寄せられた。その中で、狭き門をくぐり抜けた最終審査に臨んだ6人のアジアデザイナーをクローズアップ。



永川承美
Tsugumi Eikawa
アクセサリ部門

名古屋芸術大学卒業後、文化服装学院のバッグデザイン科で学ぶ。在学中、YKKファスニングアワードで最優秀賞受賞。今年卒業し、現在はヤマニにてバッグデザイナーを務めている。

鹿と音楽から発想したバッグコレクションでエントリー。毛皮のあるレザー素材、角とヘッドフォンからイメージされた持ち手、もみじ模様などがこの作品のポイント。永川さんはデザイナー兼社長であるレンツォ・ロッソOTB代表の大ファンで、それがきっかけになりITSに応募。借しくも受賞は逃したが、参加したことでロッソさんとの交流がかない、「いろいろな人に助けていただき、ここまで来ることができました。幸せです」と喜びを語った。



清水政紀
Masaki Shimizu
ジュエリー部門

2011年、多摩美術大学卒業。'12年、日本ジュエリー協会主催のJJAジュエリーデザインアワードに入選、'14年には同アワードにて東京都知事賞を受賞。'15年、このがっこうで学ぶ。

大胆なフォルムと繊細さでひととき目を引いたのが、清水さんが手がけるジュエリーコレクション。マテリアルに使われたのはなんと、うずら、くじゃく、だちょうといった鳥の卵の数々。それぞれのサイズを生かしたデザインが熟考されており、雑誌から切り抜いた写真を貼り付けたり、ペイントしたりと、細かな装飾で温かく彩られている。審査員を務めたイリス・ヴァン・ヘルベン氏は「とってもハートフルで素晴らしい。大好き!」とコメントを寄せた。



持ち手はヘッドホンと角をイメージ。



もみじの模様をプリントしたバッグ。



形をそろえるためパーツの数だけ卵を使用。



うずらの卵の殻の中には猫の写真が。



時澤知菜実
Chinami Tokizawa
ジュエリー部門&
アートワーク部門

共立女子大学を経て、エスモード・ジャポンでファッションを学び、2014年に卒業。その後リウオンアフターワーズにおいて1年間のインターンを経験した後、このがっこうを受講。



ファンタジーを感じさせるアートワーク。

ジュエリーとアートワークの2部門でノミネートされた時澤さん。日常の中からの自由な発想で、「磁気を使ったものや湿布など、病ごりの治療品だっただけでデザインがかわいければジュエリーになる」と考えたそう。メディカル用品をファッションに転換させるといったアイデアを練り、ウレタン素材のジュエリーパーツは、実際に医療関係の会社で作ってもらった。作品の傾向としては、バスデル調の花やハートをモチーフに、ホエティックなムードに包まれている。



ジュエリーコレクションの展示。



ビーズ刺繍やアップリケで作られた布のブックは、ほのぼのとした世界観。



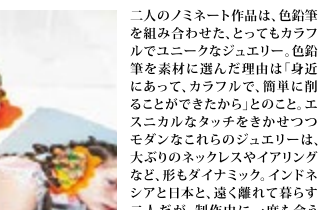
ララサティ・デワンガ・プテリ
Larasati Dewangga Putri
ギセラ・フェブリナ・ジュオノ
Gisela Febrina Juwono

ジュエリー部門

インドネシア出身のデュオ。エスモード・ジャカルタを卒業後、ララサティさんは自身のブランドを立ち上げ、ギセラさんは文化ファッション大学院大学に留学し、2016年3月に修了。



エスニックな雰囲気のネックレス。



立体感のあるジオメトリックな形が独創的。異素材のミックスもおもしろい。

二人のノミネート作品は、色鉛筆を組み合わせた、とってもカラフルでユニークなジュエリー。色鉛筆を素材に選んだ理由は「身近にあって、カラフルで、簡単に削ることができたから」とのこと。エスニックなタッチをきかせつつモダンなこれらのジュエリーは、大ぶりのネックレスやイヤリングなど、形もダイナミック。インドネシアと日本と、遠く離れて暮らす二人だが、制作中に一度も会うことなく、スカイプで話し合いながら応募作品を完成させたそう。



李文心
Wenxin Lee
アートワーク部門

中国出身。2013年に上海の東華大学を卒業。'16年、文化ファッション大学院大学ファッションデザインコースを修了。現在、デザイナーとして活躍し、中国と日本を行き来する日々を送る。



じっくり見ていると、いろいろなキャラクターが感じられる。

ノミネート作品のテーマは「24人のピリー」。多重人格者で知られるピリーを題材にレディスコレクションを制作し、そこから発展させたアートワークを出品した。激しい色のコントラストで構成されたカラージュエリー、赤は表向き、黒は心の闇を示す。「ピリーのストーリーを、ハッピーエンドにしたかったんです」という李さんは、感情の起伏を表現しつつも、毛糸玉やポップな蛍光色を取り入れることで、明るいイメージで作品を完成させた。



片貝葉月
Hazuki Katagai
アートワーク部門

2010年、武蔵野美術大学大学院空間演出デザインコース修了。卒業後、'14年まで任天堂にてゲームプランナーを務める。現在は自身の作品制作に取り組み、数々の展覧会に参加。



ミサイル、弓矢、爆弾などが並ぶが、すべて人を楽しませるためのものに。

「人を傷つける武器を、人を愛したり、楽しませたりする道具にする」がコンセプトの作品。例えば、見た目は剣だが実はシャボン玉を作ってくれる道具、というように、実用例を紹介するビデオも流され、楽しそうに見える観覧者たちの姿が印象的だった。アートと機能性を融合させた作品は高く評価され、スポンサーのひとつであるスウォッチが特別賞を授与。副賞として上海にある「アーティスト・イン・レジデンス」での制作活動が約束された。

INFORMATION ここでご紹介した「ITS(イツ)」に関連したイベントが、伊勢丹新宿店本館2階＝センターパーク/TOKYO解放区にて開催! 村上亮太さん、中里周子さんなど、歴代ファイナリストの中から日本人デザイナーをクローズアップして、作品展示と商品販売を行います。開催期間は9月27日(火)～10月4日(火)。興味のある人は、ぜひ!